

「ならなぎ」活動報告

報告者： 玉尾 洋一

日時	2026 年 1 月 11 日 (日) 13 時～15 時半	天候	晴れ	歴史文化チーム定期活動 於：音声館	
案内団体または催事名	仏像鑑賞入門第 6 回目			人数	大人： 21 名

(敬称略)

出席者：木邨、玉尾（洋）、中澤、山口、池田、北川、玉尾（ひ）、寺尾、嶋田、樋口、義田、村上、澤井、中村（和）、星田、堀野、上森、山岡、堀内（け）、奥山、吉川

実施内容：13 時～15 時半 座学

●深掘り発表 13 時～13 時 45 分 北川さん

- ・日本の怨霊について
第 3 回目

<https://naranagi.jp/kaihatsu/onryou3.pdf> (資料)

●仏像鑑賞入門第 6 回目 13 時 45 分～15 時半 中澤講師

<https://naranagi.jp/kaihatsu/shiryoku260107.pdf> (資料)

- ・金剛力士像阿形、吽形の並び方

東大寺ホームページに下記が載せてある。

「平成 22 年（2010）から 25 年（20 “）にかけて行なわれた法華堂須弥壇及び諸尊像修理事業で新たな発見があった。特記すべきは、本尊が立たれている八角二重壇の下段に八角形の台座や厨子。経机などの痕跡が見出されたことで、創建当初は日光・月光菩薩（梵天。帝釈天）、現戒壇堂四天王像、それに背面の執金剛神像の七体の塑像が二重壇の下段に安置されていたと専門家はみている。また巨像の梵天（ぼんてん）。帝釈天（たいしやくてん）、四天王、金剛力士の 8 体はこれらの諸仏からおくられて法華堂に安置されたと考えられている。」

これらの 8 体はどこから来たのか！？

法華堂は東大寺の前身である金鍾寺の遺構と思われるが、聖武天皇が国分寺建立の詔を發布された時は、紫香楽宮では大仏を建立中であり、国分寺の総本山だった。現東大寺には国分寺が建てられそこに祀られていたと推察（？）される。

金剛力士像はほとんどが向かって右が阿形、左が吽形が立っているが、法華堂には反対で立っている。また南大門も同様で、この 2 対だけである。運慶が南大門の金剛力士像を建立した時、法華堂の金剛力士像を参考にしたのではないかな？

○第四章 日本の顔になりました ～密教系仏像と和様化した仏像～

- ・奈良時代の寺院では、大陸風に土足で入る様式だったが、平安時代になると床が出来、履物を脱いで入るようになる。桓武天皇は唐への志向が強く、唐の新しい仏教を取り入れることにも熱心であった。平安時代前期、仏教美術において唐から二つの大きな流れがもたらされた。一つは一木造の仏像、もう一つは密教の曼荼羅の流行だ。

- ・空海が仏像で表現した理想の密教世界

東寺の講堂に空海が立体曼荼羅を実現した。21 体の仏像が配置されている。如来部、菩薩部、明王部からなっている。如来部 5 体は火事により造りなおしてあるので重文で、残り 15 体が国宝だ。平安時代ごとく戦災で失くなり、東寺は「平安時代唯一の遺構」として残っている。明王部にイケメンの帝釈天が警護しているが、鎌倉時代に運慶が顔を修復していて、その時に頭部に仏舎利が収められているのを発見し、有名になる。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index26.html>

<https://naranagi.jp/butsuzou/index27.html>

- ・一木造 仏像本体と台座、台座の下につける心棒までが一体となっている。鑑真と一緒に来た仏師がや

り始めた制作法が日本人の仏師に影響を与えた。唐招提寺の伝衆宝王菩薩立像が代表例だ。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index28.html>

- 和気清麻呂の私寺「神護寺」の薬師如来立像は厳しい顔をされてる。和気清麻呂は道鏡を左遷に追い詰めたため、道鏡の呪いがあった。その怨念を追い払うため、この如来を造った。他にもそのような顔を持つ仏像が散見されるが、社会情勢と関連づいている。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index29.html>

<https://naranagi.jp/butsuzou/index30.html>

- 平安初期の仏像は総じて肉厚でふっくらした体形が特徴だ。身につける衣は薄く、衣を通して肉身の豊かさがよく表現されている。筋肉が付きアスリート系だ。

●次回開発勉強会「仏像鑑賞入門」7回目。P. 167 仏像の和様化と寄木造りの誕生

日時：2月8日（日）13時～

場所：音声館

以上

（気になった点、引継ぎ事項）